

今月のことば

食わねば死ぬ

緊急急の課題だ

食っても死ぬ

永遠の問題

〔直枉カレンダー〕より

龍谷大学非常勤講師

小池 秀章
こいけ ひであき

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、「不要不急の外出は控えましょう」という言葉をよく聞くようになりました。この言葉を聞いた時、では、不要不急ではないこと、つまり、必要緊急のこととは何だろうと考えました。

生きていくためには食べなければなりません。食べなければ死んでしまいます。ですから、食べることは必要緊急のことだと言えるでしょう（「食わねば死ぬ 緊急の課題だ」）。

しかし、食べていけば死なないのでしょいか。そんなことはありません。食べていても必ず死にます。人は皆、生まれたからには死んでいかなければならないのです。これは、ずっと昔から変わらない真理であり、取り組まなければならぬ永遠の問題なのです（「食っても死ぬ 永遠の問題」）。

しかも、「死」は未来のこととは限らず、今、ここで起こることかもしれません。もう少し正確に言えば、生と死は切り離せないものであり、死の問題は、そのまま、今、この、生の問題であって、その解決は、必要緊急のことと言わねばなりません。

親鸞聖人は、「死ぬのではない。阿弥陀さまのはたらきによって、お浄土というさとりの世界（限り無いのちの世界）に生まれさせていただくのです。そして、仏さまに成り、この世に還って来て、あらゆる人々を救うはたらきをさせてもらうのです。」と教えて下さいました。

死ぬとしか思えない私たちですが、お浄土に生まれさせていただくのだと受け容れた時、そこに新しい世界が開けてくるのです。

合掌